



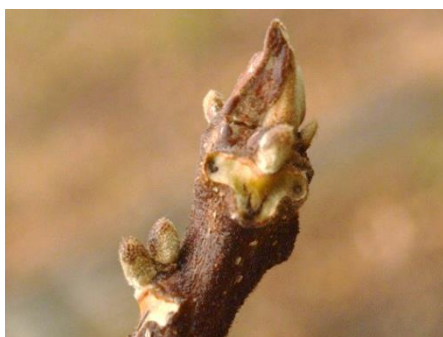
愛川ふれあいの村 12月の風景

平成25年 12月 自然のたより

学校利用がひと段落した村は静寂に包まれる日が多くなりました。昆虫は息を潜め、鳥たちが鳴いている声が小さく聞こえます。その声を辿り、落葉した枝を見上げると野鳥が羽を休めていました。今冬の初雪が高取山に降り、村では霜柱が立ち、シモバシラ（植物）の氷の花もきれいに咲きました。



かわせみ棟前の池に来たカワセミ



オニグルミの冬芽と葉痕



シモバシラの「氷の花」



サンショウの実



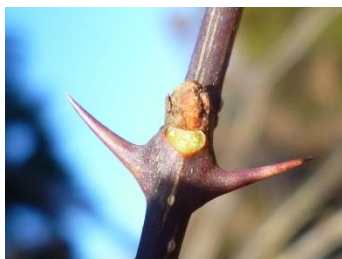
ドングリの芽吹き



ヨコツナサシガメの越冬



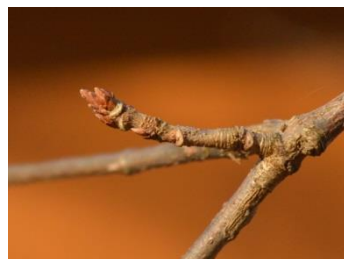
アカボシゴマダラの幼虫



サンショウの冬芽と葉痕



クサギの冬芽と葉痕



トウカエデの冬芽と葉痕



ロウバイの蕾



冬の朝の霜柱



霜が降りた葉



木の実をつまむヒヨドリ



虫を食べるカラス

★自然が造り出す「氷の花」★

限られた条件の中でしか見られない自然の造形美

12月の晴れた寒い日の朝、村の中心部にある山野草園のシモバシラ（植物）の根元に「氷の花」が咲きました。シモバシラ本来の花は、秋に咲き、冬に見られる現象は茎の中の水分が冷やされ、根元で膨張し、茎を裂いて凍った薄い氷です。薄い氷はペールのように幾重にも重なり、光を透かしています。その姿はまるで花のように見えるので「氷の花」と呼ばれています。環境によって花は様々な形になり、見る人々の目を楽しませています。

高取山山頂付近には、シモバシラが群生しており、村とは違った造形美を見せてくれますよ。



★冬の自然観察～冬芽～★

冬になると木は落葉し、枝の先には冬芽を付け、冬支度をしています。葉を落として冬眠状態になった木々は、春に新しい葉やつぼみを芽吹かせるための準備をしています。木の枝の先に蕾がありますが、これが「冬芽」です。この芽の中には、葉や蕾が丁寧に折りたたまれており、寒い冬を越せるよう、工夫して守っているのが「冬芽」なのです。

ふわふわの毛皮をまったり、ねばねばの樹脂でコーティングするなどして冬の寒さや乾燥、病虫害から身を守り、春には素敵な葉や花を咲かせます。種類ごとに「知恵」や「個性」を活かして、厳しい冬の寒さを乗り切っています。今は、冬芽を観察できる絶好の季節です。

冬は木の枝先に注目して観察してみてもいいかもしれません。



▲オニグルミの冬芽



▲サワグルミの冬芽

発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・葉青芳・大瀧裕基子

文章：葉青芳・大瀧裕基子

漫画・イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・加藤文昭

愛川ふれあいの村
で、検索★



シモバシラ

